



## 赦しの平和

- ☆殺してはならない(旧約聖書 十戒)
- ☆誰の罪でもあなたがたが赦せば、その罪は赦される。誰の罪でもあなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る(新約聖書 ヨハネ 20:23)
- ☆諦めないで出来ることをして空っぽの手を差し出して神様からの贈り物を待ちましょう(島しづ子)
- ☆あなたも平和をつなぐバトンランナーに。

石原艶子



イラスト：大城旋律（孫）

### ☆平和は赦すことから始る

報復の連鎖ほど恐ろしいものはない。やられたらやり返すことで自国のプライドと価値、優位性を保とうとする。報復は新たな戦争を生み、憎しみを生み、人の命が奪われていく。まさに地獄である。報復をやめるためには、どこかで必ず相手を赦さなくては止めることは出来ない。人間にとって赦すということがどれほど困難なことか、赦すことは真に人類に突きつけられた最大の課題である。人は人を赦せない存在として諦めてしまうのか。イスラエルの人々はナチスドイツによるユダヤ人大虐殺、ホロコーストの歴史をみんな学んでいる。自分達がされた地獄の殺戮を思えば同じことを他に対して行うことは決して出来ないはずである。然し、イスラエルがガザで行っていることは？何故出来るのか？それはネオナチに対する恐れなのか、恐れが攻撃性を生むのだろうか。然し、赦しがあればそこで歴史は止まるのである。報復の連鎖から解放されるのである。赦さなくては平和は来ない。赦すためには自分もまた赦されることを必要としている人間であることを知らなくてはならない。冒頭の新約聖書の言葉を魂に刻みたいと願う。

1983年に発行された早乙女勝元編の『アウシュビッツの本のあとがき』の言葉「おぞましい記憶は一つの時代の終わりではなく、あるいはひょっとして、始まりではないかとさえ思えるのです。」この言葉がグサリと心に刺さり、言葉を失ってしまう。ひょっとしたらの不安が今ガザで起きている。地獄の殺戮は繰り返される。赦さなければ滅びが待っている。

### ◎NOWAR、命どう宝

沖縄では多くの歌に命(ヌチ)どう宝の心が歌われている。この言葉の測り知れない重さ、深さが私の心にずっしりと落ちてくる。それは単に命が一番大切なんだよ、命あってのものだね、などという多くの人々の感覚とはどこか違うものを私は感じている。それはあの平和の礎(いしじ)に刻銘されている一人一人、あの時生きて人格を持ち、生きる権利を持っていた一人ひとりが叫んでいるからだと思う。沖縄の大地には一人ひとりの命からふき出した血潮が沁み込んでいる。大地はすべてを知っているのだ。大地が叫び、石が叫ぶのだ。戦争体験者が次々と召され直接の体験を聞けなくなっても、その叫び、その声は次世代の若者達の心にも必ず届くと私は信じている。それは「絶対に戦争をしてはならない 命どう宝」の強い心として平和への強い意志として継承されていくのだと思う。やがて6月23日慰霊の日が巡ってくる。今年もまた礎に刻まれた一人ひとりの名前を読み上げる活動が実行される。私もこの活動に参加して、平和への強い強い祈りと意志をもって一人ひとりのお名前を読ませて頂こうと思っている。このことは今、私たちに出来る大切な大切な事だと思っている。

### ☆憲法9条の平和、空洞化した憲法記念日

私は82歳の今、私の人生を生きている。今日まで国家によって命を奪われることのない時代を生きてき

たことは決して当たり前ではなく、特別に恵まれた時代を生きてきたのだとしみじみ思う。あの戦時下に生きて若者達は国家によって命を人生を奪われたのだ。国家とは一体何者なのか、何の権利があって国民の命を奪うのか。今再び、戦争の危機が叫ばれるこの時、敗戦によって与えられた平和憲法に立ち帰って考えてみたいと思う。

○1947年(昭和22年)政府憲法普及会が各家庭に配布した冊子があります。その発刊の言葉を憲法普及会の会長芦田均氏が書いています。「古い日本は影をひそめて新しい日本が誕生した。生まれ変わった日本には新しい国の歩み方と明るい幸福な生活の標準とがなくてはならない。これを定めたものが新憲法である。日本国民がお互いに人格を尊重すること。民主主義を正しく実行すること。平和を愛する精神をもって世界の諸国と交わりをみつくること。——新憲法は日本人の進むべき大道を示したもの、日常生活の指針——日本国民の理想と抱負とをおりこんだ立派な法典である。——新憲法が大胆率直に「われわれはもう戦争をしない」と宣言したことは人類の高い理想を言い表したものであって、平和世界の建設こそ日本が再生する唯一の道である。——平和の旗をかかげて民主主義のいしずえの上に文化の香り高い祖国を築き上げてゆかねばならない——。」そして「新憲法の特色、私達の生活はどうなる」の各項目が絵と共に詳しく説明されています。その項目は

○生れかわる日本 ○明るく平和な国へ ○私たちの天皇 ○もう戦争はしない ○人はみな平等だ ○義務と責任が大切 ○自由のよろこび ○女も男も同権 ○健康で明るい生活 ○役人は公僕である ○国会は私たちの代表 ○総理大臣も私たちが選ぶ ○裁判所は憲法の番人 ○知事も私たちが選挙 ○私たちがおさめる日本 この後に日本国憲法が載っています。この冊子が各家庭に配布され、そして文部省は「憲法のはなし」の小冊子を各学校に配布して憲法を国民上げて学び、平和憲法の理念の下に新日本を築き上げようとしてきたのでした。それが一体いつから憲法を教えない国になってしまったのでしょうか。私には小中学校で憲法を教えられた記憶がありません。戦後、早い時期にやめてしまったのだと思います。一体いつから何のために国の形を変えてしまう方向転換が始ったのでしょうか。これは憲法記念日5月3日を迎える私達が正しく知るべき事柄であります。

## 憲法9条

「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」

何度声に出して読んでもこれ以上でもこれ以下でもない単純明快、永遠の平和を語っている。人類の最終的目標はこの9条が地球人類の憲法となることである。「そんなことは理想主義者の馬鹿が言うことだ」と悪魔は笑うだろう。それでも私は人間は9条の世界にたどり着けると信じたい。何故なら人は殺してはならないの律法を持っているから。自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさいの愛を生きることが出来る存在であるからだ。そんな人間を信じたい、信じよう、信じるところから何かが始る。Kさんがいつも言っていた。「戦争をするのも人間だけど、戦争をしないことが出来るのも人間である」と。

然し人間は「殺してはならない」の神の律法を犯し殺す者となってしまった。ここからすべての歴史の不幸が始り、今もこの不幸を繰り返している。青い地球(星)で光り輝く存在であるはずなのに、希望の光は見えてこないのは何故だろう。ウクライナにロシアにイスラエルにパレスチナにミャンマー、シリア、アフリカの民族はじめ人類は呻き苦しみ続けている。人類はさまざまに異なる地球環境の中で独自の言語、文化を育てている。その多様性の豊かさこそが人類の宝ものだと思う。この多様性という恵みと祝福の中で人は互いに学び合い、尊敬し合い、共に生き、より豊かに幸せになるのである。然し人類の現実には真逆である。自分と異なる民族を殺し、力をもって支配する歴史を今日も尚繰り返している。平和をつく

るためには、自分にはないものを持っている他者を尊敬し、理解し、互に交流して学び合い共に豊かになることである。個人対個人の関係においてもお互いのありのままを認め合い理解し合う事、すべての偏見、差別を捨ててお互いを大切にしよう生き方が平和、共生につながるのです。私たち一人一人の生き方、価値観、人生観が足元から問われているのです。

## ☆日本人の気質

高齢になると不思議なことが沢山あります。その一つが今、現在のことはすぐに忘れてしまうのに、昔の子供時代のことは鮮明に覚えていることです。親や大人達からよく聞いた言葉を並べてみました。  
○お上に逆らってはならない ○臭いものにはフタをする ○見ざる聞かざる言わざるが身を守る ○正直者はバカを見る ○嘘は泥棒のはじまり ○嘘も方便 ○出る釘は打たれる ○一寸先は闇 ○明日は我が身  
中でも最も強烈なのはお上に逆らってはならないという事でした。身を守るために大人達はいつも周囲を見て振る舞い、常に忖度しています。イエス、ノーを明言しない曖昧さに身を置いています。村という村落共同体から排除されないためです。村八分は死を意味します。私は子供の頃から社会、政治に関心がありました。選挙の度に何故、農村社会では自民党が圧倒的に強いのかと考えていました。貧しくて苦しめられているのだから改革を叫ぶ社会党が勝つはずなのにどうしてなのかと思いました。そしてこの体質は現在も日本人の気質として根深く生き延びています。正義では事は動かない忖度政治が自民党の裏金問題の根っこにもあると思います。権力者なるお上に堂々と物を言える、イエス、ノーを明言できる民主主義国家へと変わっていかねばなりません。お上に逆らってはならない、の精神が戦争へとつながり、天皇制国家の精神的支えとして今も生き続けているのです。

## 辺野古の今

○3月11日、新工事用ゲートからの搬入が始まりました。当初、防衛局は辺野古新基地とは全く関係ない、と言っていたのはまっ赤な嘘、まさに工事用ゲートでした。今迄のゲートはテントから歩いてすぐの所で、反対側も広くて座り込み抗議行動もやりやすかったのに新ゲートは歩いて20分、歩けない者達は車で送迎、私も車の送迎を頼っています。今迄とは全く異なる道路状況などなど、私達の活動現場は一層厳しさを増しています。これからの酷暑の中での高齢者の健康が心配です。大浦湾には石が投入され護岸工事が始まっています。埋め立て海域を囲むとか？短くても12年、費用は何兆円とか？本当に完成するのかわからず、米軍は使い勝手の良い普天間空軍基地を使い続けることでしょう。すべて日本のお金で造る新基地は一体誰のため何のため？一日の警備費は2600万円とか。何故止められないのか、走り出したら止まらない、これ以上のお金の儲かる所はないから!!お金!お金!金の亡者達が自然を破壊していく。それでも私達は新ゲートの前に座り込み、諦めないで叫び続けている。4月14日、大浦湾を見渡せる瀬高の浜での県民大集会には小雨の中、1800人が結集しました。新基地断念と沖縄を戦場にさせない訴えを日本全土と世界に向けて発信しました。玉城デニー知事は新基地建設に反対!!新たな自衛隊基地も造らせないと、力強いメッセージを発信されました。こうした大集会に結集する私達は互いに励まし合い、大きな力を与えられています。沖縄の民のこのパワーはやはり命どう宝の心と堅く結ばれていることを痛感します。私もまた叫ぶ一人としてここに生きています。

## ☆うるま島ぐるみの活動

3月30日、うるま市陸上自衛隊勝連分屯地にて第7地对艦ミサイル連隊の発足記念式典が行われ、市長、自民党議員参列、デニー知事は招待を断り欠席の中行われました。私達市民はゲート前に通じる道路入口に張りめぐらされた立入禁止の柵の前、機動隊員が立ち並び前に座り込み、ミサイル配備反対の抗議

行動を 100 人で頑張りました。勝連分屯地には自衛隊の立派な宿舎も建ち、米軍と自衛隊一体となったミサイル配備基地としてまるで新たな戦前が始ったかのような軍事力拡大が目に見える形で進行しています。勝連分屯地は住民生活のすぐ隣り、100メートルの所には学校もあります。何故住民上げての反対運動は盛り上がりませんでしたのでしょうか。昔この地は緑豊かな丘、田園地帯でした。自衛隊基地が出来てから水源が枯渇し田んぼを作れなくなりました。大切な防風林は県の許可もなく伐採されていました。住民生活の環境は大きく変わってしまいました。周囲には赤瓦の立派な家々が見えます。貧しかった人々を国はお金で買って、自衛隊基地を造ったのだと思います。

### ☆うるま市石川自衛隊訓練場断念

3月20日、陸自訓練場断念を、国策優先にノーの大集会に1200人が結集しました。保革を越えて住民が一体となって国に対してNO—を突きつけたのです。私達住民には平穏に暮らす権利がある、国は住民を見ていない、私達は決して国の言いなりにはならない。日常生活に堅く根差した住民の反対の声はすごい爆発的なパワーとなって、ついに防衛省も断念せざるを得ませんでした。市長も反対に舵を切らなくては次はない所に追いつめられたのです。初めて住民が一体となれば国が動くことを体験しました。然し、国は既に予算を獲得しており、沖縄の中で他の場所を考えていくと言っています。国土の0.6%の沖縄に70%の米軍基地があるこの沖縄にそんな所はどこにもありません。もうこれ以上沖縄に軍事基地は要りません。私達は防衛省を看視し、これからも住民一体となって闘っていきます。

☆お願い・・・ ノーマア沖縄戦、えひめの会発行のリーフレット100万部配布プロジェクトに協力連帯をお願いします。「戦争をさせない」「中国への戦争準備をストップ」今の中国には日本を攻撃してくる理由は全くなく日米が中国への攻撃、戦争態勢を構築しているのが現実、それこそが東アジアでの戦争の危機を作り出しています。

○中国への攻撃拠点、戦場にされる沖縄 ○中国軍を攻撃するための「日米共同作戦計画」 ○中国のすぐそばが米中軍事対峙線 ○アメリカの対中姿勢の転換 ○日米NATOによる「対中国軍事包囲網」の構築 ○報道されない米日らの「挑発」 ○中国がおこす台湾有事はあり得ない ○台湾有事は日本有事ではない ○台湾有事を流布させる米日の目的 ○有事を口実に構築される「中国包囲網」など詳しく書かれています。戦争を起こさせないために今、このリーフレットを多くの人に配布しましょう。米の策略にあおられてはなりません。発送希望の方は100部以上でお願いします。1部10円

お問い合わせ 090-8282-6077(立田) 090-3783-8332(阿部) メール:nmo.ehime@gmail.com

辺野古基金のために 引き続き御協力お願い致します。

○つながるかうつぐみの会 (大野悦子:福生市在住)

リサイクル着物からの作品: (\*大・小の手提げ袋\*マイバック\*洋服など)

○あみの会 (山田博子:うるま市在住)

リサイクル系の作品: (\*各種帽子\*アームカバー\*ルームシューズなど)

リサイクル着物、糸と不要になったセーターなどの提供と作品販売に御協力下さい。

提供下さる方は必ずご連絡下さい。 両窓口:石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

自宅:098-964-3237 携帯:090-4471-1942

Email:yuuwanoie@gmail.com

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号:12260 番号:12650271 イシハラツヤコ

